材料の物理2 (電磁気学)

第十回:磁性体(物質中の電磁場)

物質中の電磁気



拡大

Q:磁石にはどんな力がある?

磁化 (magnetization)

磁気モーメント
加

原子電子の回転運動スピン対応

History

隕石 BC 5000 メソポタミア文明など

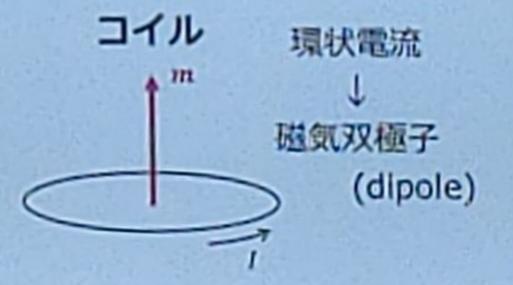
磁鉄鉱 BC 3000 ギリシャ マグネシア地方

KS鋼 1917

?

(初代学長)

ネオジム磁石 1984 佐川眞人



磁化の起源 … 電子の回転運動 (スピン)

電子の双極子モーメント(古典論)

半径 r. 速度 v の電子の円運動

電流

$$I = -\frac{e}{T} = -\frac{ev}{2\pi r}$$
 $(T = \frac{2\pi r}{v} \pm D)$

磁気モーメント m=SI , (7.57) m=SIk より 回路面積 $=\pi r^2 \frac{-ev}{2\pi r} = -\frac{1}{2}erv$

一方、電子の角運動量しは



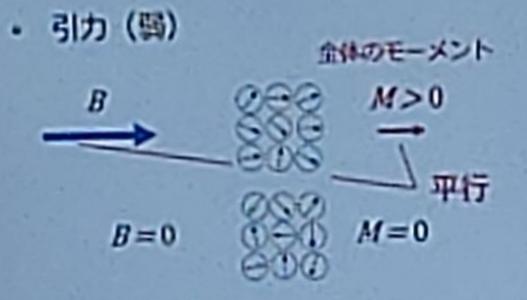
電子の質量= m。

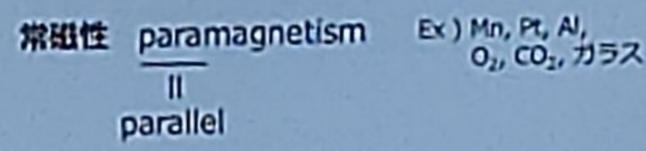
磁気双極子モーメントは

$$m = -\frac{e}{2m_e}L$$

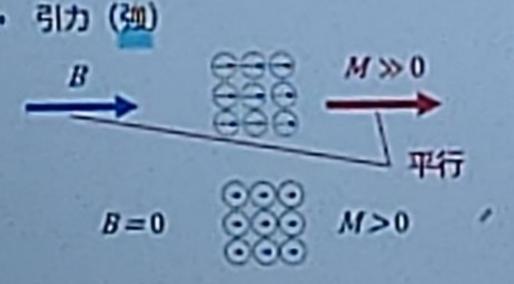
 $m = -\frac{e}{2m_o}L$ "軌道磁気モーメント"

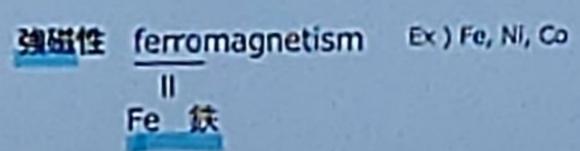
様々な磁性体 … 外場応答で分類





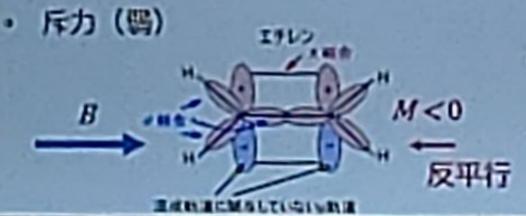
型場と磁化が平行 磁場ゼロで磁化ゼロ





- 磁場と磁化が平行
- 磁場ゼロでも磁化が揃ったまま

→自発磁化



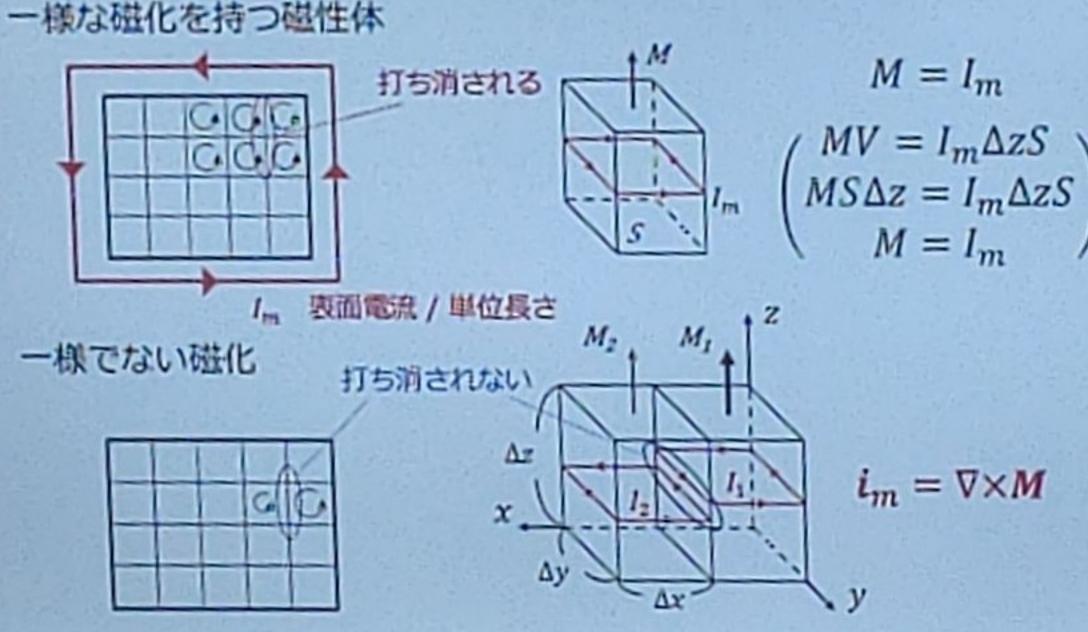
反磁性 diamagnetism

Ex) グラフェン、有機分子 #電子 (非局在)

- 磁場と磁化が反平行
- 量子論的取り扱いが必要

13

磁化電流:磁化率χ"の理解



微小体積毎のiと Mのゆらぎを考慮する必要がある

証明)

各々の微小体積での I, M は

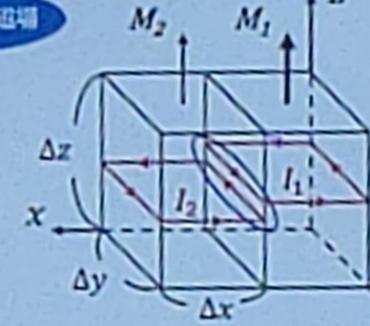


 $M_1 \Delta x \Delta y \Delta z = I_1 \Delta x \Delta y$

磁化 体積 電流 面積

$$I_1 = M_1 \Delta z$$

 $I_2 = M_2 \Delta z$



同様に

境界での電流 1。は

$$I_y = I_1 - I_2 = (M_1 - M_2) \Delta z$$

面積 (ΔxΔz) で規格化し、電流密度 im, に直す

$$i_{m_y} = \frac{l_y}{\Delta x \Delta z} = -\frac{(M_2 - M_1)}{\Delta x}$$

$$\Delta x \to 0$$
 の極限をとり $i_{m_y} = -\frac{\partial M_z}{\partial x}$ (※ M_1 , M_2 は z 方向より)

y方向に隣接する境界面でも同様に考える

$$I_x = (M_2 - M_1) \Delta z$$

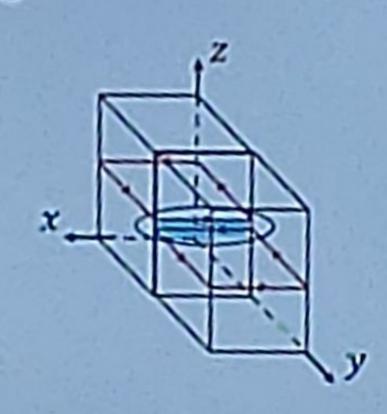
$$I_{m_x} = \frac{I_x}{\Delta x \Delta y} = + \frac{M_2 - M_1}{\Delta y}$$

 $\Delta y \rightarrow 0$ の極限より

$$i_{m_x} = \frac{\partial M_z}{\partial y}$$

方向にも同様に考えてまとめると

$$\begin{cases} l_{m_x} = \frac{\partial M_x}{\partial y} - \frac{\partial M_y}{\partial z} \\ l_{m_y} = \frac{\partial M_x}{\partial z} - \frac{\partial M_z}{\partial x} \\ l_{m_z} = \frac{\partial M_y}{\partial x} - \frac{\partial M_x}{\partial y} \end{cases}$$



これより

$$i_m(r) = \nabla \times M(r)$$

磁化電流 = 磁化の回転

16

物質中の磁場

アンベールの法則

$$\nabla \times B = \mu_0 \mathbf{i}$$

を拡張

物質中では磁化電流 (か流れているので

項をプラス

$$\nabla \times B = \mu_0(i + i_m)$$

$$\nabla \times \left(\frac{B}{\mu_0} - M\right) = i$$
 が得られる

II

物質中の磁場の強さ

$$H(r) = \frac{B(r)}{\mu_0} - M(r)$$
 が定義できる

これより

$$\nabla \times H = i$$

"物質中のアンベールの法則"

ここでストークスの定理

$$\int_{S} (\nabla \times H) n \, dS = \int_{C} H \, dl \qquad \text{fb}$$

$$\int_C H \, dl = \int_S i \, n \, dS$$

が成立

"物質中のアンペールの法則" (積分形)

また、モノボールは物質中でも存在しない

$$\nabla \cdot B = 0$$

$$\int_{S} B(r) \, n(r) \, dS = 0$$

かけられた磁場の強さHと磁化Mの関係

$M = \chi_m H$ と表す

実験で計測するとき超便利!

磁化率 … 外場に対する磁気的応答

$$\chi_m > 0$$
 常磁性 (~+10⁻⁵)

$$\chi_m < 0$$
 反磁性 $(\sim -10^{-5})$

また、Hの定義式に代入すると

$$B = \underline{\mu_0(1 + \chi_m)}H$$
$$= \underline{\dot{\mu}H}$$

$$\mu = \mu_0 (1 + \chi_m)$$
 "透磁率"

外場に対する磁気的応答 物質固有の値

Ex) 鉄芯、モーター、トランス



本日の課題

磁気モーメントの起源を古典論に基づいて脱明せよ。 1